

2017年7月

第82号

# ぱれっと



(株)北日本ベストサポート  
Tel. 018-883-1888

## 改正組織犯罪処罰法（テロ準備罪法）について

6月15日未明、参議院本会議において改正組織犯罪処罰法が自民、公明、日本維新の会などの賛成多数で可決成立した。

改正組織犯罪処罰法は犯罪を計画段階で処罰する「共謀罪」の構成要件を改め「テロ等準備罪」を新設するものである。

同法の主なポイントは『国際組織犯罪防止条約を締結するための法整備』『テロリズム集団などの「組織的犯罪集団」に適用』『二人以上での「計画」と少なくとも一人による現場の下見などの「準備行為」があれば処罰可能』『対象犯罪は277項目』『実行前に自首した場合は刑が減免される』ことなどである。

法案成立によって、187の国・地域が参加する国際組織犯罪防止条約の締結が可能となり、批准されれば各国の捜査機関と直接情報交換が進み、海外逃亡した犯人の引渡しや犯罪収益の発見、没収、被害回復の面での効果が期待できる。

テロ等準備罪で摘発の対象となるのは、組織犯罪集団であり、テロ集団のほか、暴力団、麻薬密売組織、人身売買組織、振り込め詐欺集団などが想定される。組織犯罪集団の構成員や周辺者が、二人以上で重大犯罪を企て、うち一人でも実行準備行為に走れば、その段階で全員を取り締まることができる。

現行刑法では、実行された個人の犯罪を罰することが原則となっており、実行行為に関わらない「首謀者」に捜査が届きにくくなっていたが、本法では組織を構成する全員が取り締まりの対象となる。

犯罪対象となるのは ①テロ実行(組織的な殺人、現住建造物等放火、ハイジャック、その他など 110) ②薬物(覚醒剤や大麻、ヘロインなどの輸出入・譲渡等 29) ③人身売買に関する搾取(人身売買、集団密航者を不法に入国させる行為、強制労働、強制買春の斡旋等 28) ④その他資金源(組織的な詐欺・恐喝・常習賭博、マネーロンダリング等 101) ⑤司法妨害(偽証、組織的な犯罪の証拠隠滅、逃走援助等 9)など 277項目である。

今回の法案審議では、「市民社会への監視が強まる」「内心の自由が犯される、憲法違反だ」との懸念や批判が繰り返されたが、世界各国でテロが多発している現状や2020年の東京五輪・パラリンピックではテロやサイバーテロ、組織犯罪の標的になる恐れもありそれらに対処するために法案整備は意義あることである。法規制は権利侵害の要素を含むが、一方、守られる権利も大きいものがある。因みに、欧州ではテロに関する情報収集として裁判所の令状がなくても電話やメールを傍受できる「行政傍受」が認められている。

改正法はあくまで、犯罪成立の要件や刑罰を定めた実体法であって、捜査手続きは従来の刑事訴訟法に基づいて行われ、警察が新たな捜査手段を手にするものではない。国民理解のためにはもっと丁寧な説明が求められている。

## 「四苦即四喜」

平澤 興 語録より

生老病死を四苦というが、私にとってはそれは四苦ではなく、四喜である。

子供を生むための苦しみ、それは大自然から与えられた不思議な力であり、その力によって新しい生命が生まれる。

このことは科学的、宗教的に見ても宇宙の中でこれ以上尊いものはない。人間が生まれるということ、この不思議さに比べると生むための苦しみなどというものは、考えようによっては、むしろ苦しみではなく大きな喜びであり、大きな感謝である。

老、生まれるのも自然の力なら、老いてゆくのも自然のはたらきであり、人間は人間の工夫だけで生きてゆくのではない。幼年、少年、青年、壮年と変化を経ながら人は老いてゆく。自然の力で生まれてきたものが、大自然の原素の姿に向かって帰ってゆくのである。大自然の側から見れば、大変面白いものである。

病とは、無理があって起こる故障である。治療、修繕のできる病気でなければ、故障即ち死ということになって大変である。そうではなく、故障の軽い中に病気に気付き、治療のチャンスがあたえられることはむしろありがたいことではないか。病気というものは、無理をせずに長生きをする一つの過程と思われる。

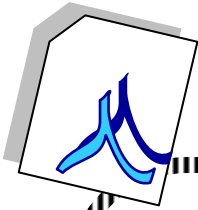
私は糖尿病のおかげで、そのため注意をしているので長生きをしているように思われる。病気は困るというより、考え方によれば、与えられた生命を無理なく長生きさせるためのものであり、それは喜びであり、感謝である。

人間は死ぬ。

死とは、大自然より与えられた生命が、元の大自然にかえり、大自然の一部にかえり、再び大自然の建設に参加する。

これは「無」にかえるのではなく、新しい大自然の創造に参加するのである。

私は生老病死を四苦と考えず、四喜とみているのである。一年に四季がある如く、生があり、老があり、病があり、死があるというとは面白くそこに喜びがあると知っている。



## レンブラント・ファン・レイン (バロックを代表する画家)

- 1606 年 オランダで製粉業を営む中流階級の父と、都市貴族でパン屋を生業とする一家の娘を母とする8番目の子供として生まれた。
- 1613 年 ラテン語学校に入学。
- 1620 年 14歳でラテン語学校から飛び級でライデン大学へ入学。画家を志向し中途退学。
- 1624 年 18歳、オランダ最高の歴史画家のピーテル・ラストマンに師事。(アムステルダム)
- 1625 年 アムステルダムに戻り、1628年には弟子を指導するようになる。
- 1626 年 初めて作成したエッチングで名声を国際的なものにした。
- 1632 年 集団肖像画「テュルプ博士の解剖学講義」は代表的出世作となる。
- 1633 年 結婚。  
「キリストの受難伝」をテーマとした「キリスト昇架」や「十字架降下」などを仕上げた。
- 1639 年 後に「レンブラントの家」と呼ばれる邸宅を購入。
- 1642 年 火縄銃手組合が発注した集団肖像画「夜警」を完成させた。この頃身内に不幸が相次ぎ妻も亡くす。
- 1649 年 素画や絵画同様に版画でも自由闊達かつ幅広い表現で複雑な彩を現出した。しかし、浪費癖や女性関係などから生活は困窮を極め、その後も質素な生活が続いた。
- 1669 年 10月4日 死去 享年 63歳。

## オススメの BOOK



### 『台湾で見つけた、日本人が忘れた「日本」』

作者 村串 栄一 講談社 +  $\alpha$  新書

台湾は東日本大震災の際、世界ナンバーワンとなる 200 億円にも及ぶ、義援金を集め日本に贈ってきた国である。

戦前は日本の統治下に入り、戦後大陸から渡ってきた蒋介石が統治するようになった。台湾の人達は「犬(日本人)が去って豚(蒋介石軍)が来た」と揶揄している。

現在では中国との関係や国際情勢の中で複雑な舵取りを強いられているがアジアNo.1の親日国と言える。戦前日本統治時代の足跡が今でもいたるところで色濃く残っている。台湾を多方面から紹介している本だ。

## 自動車保険が必要な理由と意外な特約

車を運転するという事は、常に事故と隣り合わせです。「まさか自分に限って自動車事故なんて…」多くのドライバーはそう思っていることでしょう。

しかし、どんなに安全運転を心がけていても、思いがけず事故の当事者になってしまったり、他人の事故に巻き込まれたりすることがないとは限りません。

自動車事故が起きると必ず損害が発生します。怪我の治療費や自動車の修理費、さらに、もし被害者の方が亡くなられた場合、遺族への高額な賠償も発生し、経済的負担はとて大きなものとなります。その経済的な面での確かな備えを約束するのが自動車保険の大切な役割です。

今回は意外と知らない自動車保険の「他車運転特約」についてです。この特約は自動車保険に自動的につけられています。

例えば…

他人の車で事故を起こしてしまったら？  
最近、運転免許をとった息子（Aさん）が友人の車を運転して事故を起こしてしまいました。

友人の自動車保険を使うことができますが、翌年の自動車保険の等級が下がるため、友人が負担する保険料が割増となってしまい困った事態となります。

借用自動車で起こした事故であっても、Aさんが加入している自動車保険を優先的に利用できるのです。

Aさんが友人の車を運転中に他人にケガをさせたり、車などに損害を与えた場合、Aさんの車の自動車保険の対人賠償保険・対物賠償保険から保険金の支払いを受けることができます。

また、Aさんの自動車保険に人身傷害補償保険の契約があれば、Aさん自身のケガについても、実際の損害額に基づいて保険金が支払われることとなります。

さらに、友人の車に与えた損害についても、Aさんの自動車に車両保険が付いている場合、条件によっては補償を受けられることがあります。

自賠責保険の限られた補償額では交通事故の補償を全てカバーすることは難しい為、自分の意思で入る任意保険に加入することは勿論、いざという時の他車運転特約の存在も知っておくとよいでしょう。

<注意> 保険会社によって適用条件は異なりますので、詳しくは保険会社にご確認ください。



将棋の駒生産  
日本一!!  
山形県天童の  
人間将棋

### 【編集後記】

恐るべき10代、神童、天才が出現した。藤井聡太君である。

これまで将棋界の歴代連勝記録は28連勝となっているが、聡太君は中学生プロ棋士としてデビュー以来公式戦で連勝を重ね、ついに6月21日の対戦で勝利を収め最多連勝とタイ記録となった。

インタビューでは、「望外」「僥倖」など難しい言葉とともに自分の未熟さを謙虚に語り、末が恐ろしいほどの好少年だ。

盤外からさらなる連勝を祈念し惜しめない声援を送りたい。  
(6月22日記)